

2012年 4月11日・「熊本日日新聞」では

「放牛さん」絵本に

飢饉の死者弔う石仏 県内118体所在地図も 熊本市の正田さん出版

江戸時代の熊本で、飢饉^{ききん}の死者を弔うため118体の地蔵を作った「放牛さん」^{ほうぎゆう}の足跡をたどる絵本を、熊本近代文学館友の会放牛石仏研究会代表・正田吉男さん（70）＝熊本市＝が出版した。

放牛は僧侶で、江戸中期の享保7（1722）年から11年間で県内各地にこれらの石仏を作ったと伝えられる。凶作・飢饉で死者が絶えなかったため、怒りや悲しみの歌を石仏に彫り、今でも「放牛地蔵」の名で親しまれている。

絵本は「放牛さんとへふり地蔵」（コールサック社・1575円）。飢饉に苦しむ村人のために放牛が石仏を作り、鎌研坂^{かまとぎざか}（現熊本市）に設置したところ、村の泉に水が戻ったという物語に水彩画が添えられている。

石仏118体の所在地図も付けてあり、正田さんは「放牛の時代と現代の世相は似ている部分がある。地図を頼りに放牛地蔵を巡礼し、価値を見直してもらいたい」と話している。熊本市の全小中学校や公民館図書館に計155冊を寄贈する。

と紹介されています。